

Press Release

報道関係者各位

2024年7月3日

第96回
企画展布留遺跡の歴史
— 物部氏より前から後まで2024
7/10 wed → 9/9 mon

天理参考館の周辺は、古墳時代に古代豪族物部氏が暮らした大きな集落遺跡、「布留遺跡」です。布留遺跡では約80年にわたって発掘調査が行われた結果、古墳時代だけでなく旧石器時代や縄文時代、そして古代から中世の多くの遺構や遺物が見つかっていて、長きにわたってこの地で営まれた人の暮らしの痕跡を示しています。

本展は、発掘調査の写真と出土品を駆使して、縄文時代から中世に至る布留遺跡の長い歴史をたどります。

■ 展示構成

序章 布留遺跡の発見

布留遺跡の最初の発掘調査は1938年に行われた。現在も使われている古墳時代の土器の型式名「布留式」はこの調査地の町名から取られたものである。学史上重要な調査であることに加えて、土器とともに玉作りの素材が出土しており布留遺跡が多様な内容を持つ集落遺跡であることが既に表れていた。

翌1939年に行われた2回目の発掘調査では多数の縄文土器が出土し、今度は縄文時代の土器型式「天理式」が設定された。布留遺跡は当初から、長い期間にわたって人が住み続けた大きな遺跡であることが明らかになっていた。

[主な出品資料]1938年出土「布留式」の基準になった古墳時代の土器、石製品

1939年出土「天理式」の基準になった縄文土器

物部氏の前

1. 旧石器・縄文時代

布留遺跡では旧石器時代のナイフ形石器が出土していて、1万年以上前からこの地に人が暮らしたことがわかる。縄文時代は早期、中後期から晩期まで長期間にわたる数々の遺構と遺物が見つまっている。県内で2例しかない翡翠製の大型大珠(装身具)は、布留遺跡と約1km北西の別所ツルベ遺跡から出土している。

[主な出品資料]旧石器時代のナイフ形石器

縄文早期の集石遺構土器、石器

縄文中期竪穴建物内の石囲い炉(模型)

縄文中・後期の土器、石器

縄文晩期の土器

翡翠製大珠

別所ツルベ遺跡出土翡翠製大珠(天理市教育委員会所蔵)

2. 弥生時代

弥生時代は前期の竪穴住居址や墓がみつかり、複数の個所で土器が出土しているが、集落として見られるのは後期になってからと考えられる。また北の丘陵上には「高地性集落」と呼ばれる高い所に営まれた集落が2箇所見つかっている。しかし縄文時代と比べると人が活動した痕跡はとても少ない。その頃には約3km西の平等坊・岩室が大規模な拠点集落として賑わっていた。

[主な出品資料]別所裏山遺跡出土品

平等坊・岩室遺跡出土品(天理市教育委員会所蔵)

3. 古墳時代

『日本書紀』垂仁紀には、布留遺跡東側の丘陵上に鎮座する石上神宮の宝物を、古代豪族物部氏が管理したと記される。それを裏付けるかのように、古墳時代の大型建物や倉庫の跡、日本書紀で「石上溝」と記された溝と推定される巨大な人工の溝、様々な道具の生産に関わる建物が見つかっており、多種多様な祭具や作りかけの玉類、鉄を製錬する際に出る鉄滓のほか、朝鮮半島由来の遺物も多数出土している。物部氏がこの地で豊かに栄えた様子を物語る。また物部一族の古墳は、巨大な横穴式石室を有する大型前方後円墳から物作りの工人達の小さな円墳まで多様であり、出土品から様々な人がいたことがわかる。

[主な出品資料] 木製品、子持勾玉、玉類未製品、韓式系土器
赤坂古墳群出土品

物部氏の後

4. 奈良時代以後

布留遺跡の遺構や遺物からは古墳時代ほどの隆盛は認められないが、『日本書紀』によると物部氏は7世紀には石上氏を名乗るようになったようである。石上一族は『日本書紀』以降も六国史に度々登場する。なかでも最も栄達を重ねたのは石上麻呂であり、708年には最高位の官職である左大臣まで上り詰めた。この石川麻呂の墓と想定されるのが、中国製の海獣葡萄鏡が出土した杣之内火葬墓である。平安時代は大規模な遺構は見つかっていないが、火葬墓が複数見ついているのは貴重な例である。また緑釉陶器、獣脚形土器といった一般の住居とは考えられない遺物が出土した場所は、石上神宮の神宮寺であった良因寺と推定されている。遺跡の北東部では、二重の濠をめぐらせ内部に庭園を設ける中世の屋敷跡が見つかっており、中世にこの辺りを本拠地とした豊田氏の城館とみられている。物部氏の巨大古墳、塚穴山古墳周辺は中世には集落共同の祈りの空間や墓地となっていた。このように布留の地では、ずっと人々の営みが続いている。

[主な出品資料] 杣之内火葬墓出土海獣葡萄鏡、釵子
奈良三彩、緑釉陶器、獣脚形土器、黒色土器

■出品数 80点

■関連イベント ※要入館券

・記念講演会

「発掘調査からみた河内の物部氏—阿都の別業・渋河の家—」

講師:樋口めぐみ氏(八尾市魅力創造部観光・文化財課)

日時:8月24日(土) 午後1時30分~3時 / 会場:地下1階研修室 / 定員:100名 [当日先着順]
受講料:700円(入館料含む)

・記念講演会

「布留遺跡にみる縄文社会の特質」

講師:松田 真一(天理参考館特別顧問)

日時:8月30日(金) 午後1時30分~3時 / 会場:地下1階研修室 / 定員:100名 [当日先着順]
要入館券

・トーク・サンコーカン(学芸員による講演会)

「布留遺跡の要点ベスト10」

講師:藤原 郁代(天理参考館学芸員)

日時:7月13日(土) 午後1時30分~3時 / 会場:地下1階研修室 / 定員:100名 [当日先着順]
要入館券

・ギャラリートーク(マンドートーク) (各回同一内容)

開催日:7月22日(月)、9月2日(月)

時間:午後0時30分~1時20分 / 会場:3階企画展示室

・その他

布留遺跡の発掘調査時の写真や杣之内古墳群の画像を上映。

会期中常時開催 / 3階ロビー

■第96回企画展「布留遺跡の歴史—物部氏より前から後まで—」 広報用画像リスト

これらの広報画像は当館ウェブサイトのプレスリリース内(第96回企画展「布留遺跡の歴史—物部氏より前から後まで—」)よりダウンロード可能です。使用に関しては以下の注意事項を遵守してください。

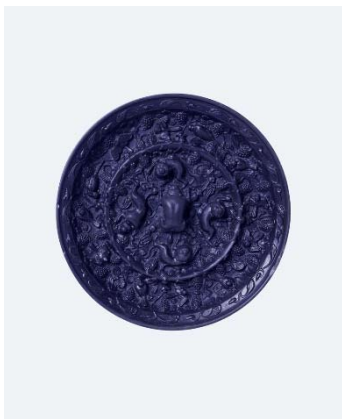
・キャプションには以下の通り記載してください。

- 【1】 海獣葡萄鏡 杣之内火葬墓 奈良時代 (天理大学附属天理参考館 所蔵)
- 【2】 子持勾玉 布留遺跡樋ノ下・ドウドウ地区 古墳時代 (天理大学附属天理参考館 所蔵)
- 【3】 土師器の「布留式」命名の元になった遺物 布留遺跡堂垣内地区 古墳時代 (天理大学附属天理参考館 所蔵)
- 【4】 木製刀装具 布留遺跡里中地区 古墳時代 (天理大学附属天理参考館 所蔵)
- 【5】 縄文土器 布留遺跡堂垣内地区 縄文時代 (天理大学附属天理参考館 所蔵)
- 【6】 翡翠製大珠 布留遺跡堂垣内地区 縄文時代 (天理大学附属天理参考館 所蔵)
- 【7】 ポスター

・写真(画像)のトリミングや文字乗せはご遠慮ください。

・写真(画像)の使用目的は、本展の紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。

【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



■開催概要

展覧会名 第96回企画展「布留遺跡の歴史—物部氏より前から後まで—」
会場 天理大学附属天理参考館 3階企画展示室
会期 2024年7月10日(水)～9月9日(月)
開館時間 午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)
休館日 7月16日(火)・23日(火)・8月6日(火)・13日(火)～17日(土)・20日(火)・27日(火)・9月3日(火)
入館料 大人500円、団体(20名以上)400円、小中高生300円(学校団体の見学は無料、要事前申込)
※障がい者およびその介護者1名は無料。受付カウンターに障がい者手帳等またはミライロIDをご提示下さい。
主催 天理大学附属天理参考館
後援 天理市、歴史街道推進協議会
協力 天理市教育委員会、天理大学歴史文化学科



第96回
企画展サイト

■お問い合わせ 天理大学附属天理参考館 〒632-8540 奈良県天理市守目堂町250番地
TEL.0743-63-8414 FAX.0743-63-7721 E-mail:san-info@sta.tenri-u.ac.jp
展示担当:藤原 郁代(考古美術室学芸員) / 広報担当:山口・渡辺